

ハスヌマ通信 第9号

発行人 板倉直壽 (なおひさ) TEL/FAX 0548-29-0961

牧之原市を明るく強くする、行政への提言。住所 〒 421-0411 静岡県牧之原市坂口 2142 番地 1

2024.9.7 発行 「ハスヌマ」は家の屋号です。印刷所 アスクル (株) 東京都江東区豊洲 3-2-3

○御意見をお待ちしています。PC ginzanokaze@nifty.com 携帯 080-3420-8075 (ショートメール)

○私は、戦後のいわゆる自虐教育の中で育ちました。失われた日本人の誇りを取り戻したいと思います。



1、小中学校統合の白紙撤回を求めます。 第3回

～小中統合で、①教育環境は悪くなり (市は良くなるとしか言わない)、②市の財政負担は重くなり、③小学校区共同体の衰退に拍車がかかります。～

(1) 小学校区の地域共同体の衰退に拍車がかかる。

市は、【単学級は教育環境として良くない】という理由で 10 校を統合し、クラス替えのできる全校生徒数 1 千人規模の学校を 2 校造ると決めたわけですが、一方で「小中統合後 20 年間は単学級を作らない」と言います。つまり、20 数年経てば単学級が生ずることを予想しているわけです。それなら 10 校を廃止する意味があるのでしょうか。その間に元の小学校区共同体の衰退に拍車がかかり、牧之原市全体が衰退してしまうのです。これは単なる全国的な人口減少の反映ではなく、8 つの小学校を廃止するという市の政策から来る人口減少です。であれば、現状の 10 校のままで、小学校 8 つとその共同体を維持強化する「努力」をしてみたらどうでしょう。公共施設の縮小を目的とした小中統合には「教育理念」はなく、市を成長させる「努力」が感じられません。

(2) 10 校のままで小学校も共同体も強くし、住民を明るく元気にする努力をする。

小学校には ①共同体の拠り所となり、人を引き寄せる力があります。また、②コミュニティスクール (学校運営協議会制度を設置した学校) と呼ばれるように、学校を中心に、学校・生徒・父母と地域住民の協働が生まれます。さらに、③学校施設が地域住民の活動の場にもなり、④災害の避難施設として安心感が生まれます。もし、現在の 8 つの小学校が消えれば、上記のことが失われ、共同体の力を弱め、衰退に拍車がかかるでしょう。

市は、「統合して小学校がなくなると共同体が衰退する」という「市民の声」に対して、「地区の子ども達が通う小学校がなくなるわけではなく、自治会もなくなるわけではありません」と、トチンカな回答をしていますが、この感覚で大丈夫でしょうか。

市は、子どもを増やす、人を呼び込むと言いながら、その反対のことをしています。小さくとも元気な自治体には、郷土を愛する誇り高い住民が独自性のある活動をしているところもありますが、牧之原市はそれが欠けていないでしょうか。

(3) 地域での小学校教育の大切さを再確認しましょう。

保育園、幼稚園、小学校は、子供が人間になる為に最も大事な時期の教育機関です。もちろんその前に親の存在が一番大事ですが、人は適切で愛情ある教育を受けてこそ人らしくなれます。その意味で小学校は高等教育より大切です。仮に多少費用がかかっても犠牲にすべきではないでしょう。単に公共施設を減らす為に小学校を犠牲にするなら教育理念がなさすぎます。

(4) 市は教育費 (施設費+人件費) の試算を示すべき。

市は教育費を削減し財政負担を減らす為に統合が必要だとは言っていません。結局、財政の真相がわからないまま、多くの市民は財政が厳しいのだろう、だから統合やむなしと勝手に付

度しています。市は、試算を示して、統合と財政の関係を述べるべきでしょう。そうすれば、その真偽はどうかという検討が始まります。一方、財政に問題がなければ無理に統合する必要はないはずです。統合で教育環境は良くなるからです。簡単な試算は専門家に依頼しなくてもできます。ある時点での生徒の予想人数に基づいて、学級数、教室数、廊下その他から校舎の面積を出して単価をかければ施設費が出ますし、人件費も生徒数から教職員数を出し、個々の人件費を積み上げればいいだけです（なお、人件費は県と国の負担です）。試算なしに、どうして教育委員会や市長は統合という重大な決定をすることができたのか、不思議です。

(5) 市は国の言う通りにし、市民は市の言う通りにしていればいいのでしょうか。

なお、①市は政府の言う通りにしていればそれで良いとか、②市は政策実現の為には市民に事実を隠してもよいと考える人もいます。しかし、①政府は牧之原市の詳細を知るわけではありませんから市が独自の方針を立てるべきですし、②市民の力を結束するには、市は市民に正直に語り市民の理解と支持を得るべきだと思います。市は説明責任を果たしていません。

(6) 牧之原市に将来性はないのか？ 今の小学校のままで学校も共同体も元気に！

静岡県は温暖で風光明媚な住み安い土地柄ですし、全国的に人気の高い県です。牧之原市には山林など未開発の土地がたくさんありますから、今後、過密になった静岡市や浜松市など近隣の都市から徐々に人が移り住む可能性があると思われます。

かつて横浜市も東京で働く人々の居住地として大量に人口が流入して、数十年の間に大都市になりました。昔の写真を見ると、今の牧之原市のように田んぼ、畑、雑木林ばかりでしたが、今はいくつもある小高い台地の上まで宅地で覆われています。従って、今後人口減少があるとはいえ、何十年間かをかけて、牧之原市も近隣の過密地域から人の移動があってもおかしくないと思います。私が横浜市に移り住んだ1979年頃、新幹線が開通して15年が過ぎているにも関わらず、新横浜駅はだだっ広い更地にぽつんと建つ寂しい駅でした。その後、バブル期に入り、続々と建物が増え、間もなく隙間がないほどビルで覆われましたが、街ができるには少なくとも20年、30年の歳月がかかります。

牧之原市の近くには国道一号、東名高速、第二東名、東海道線、新幹線と、日本の大動脈が何本も通っており、こんなに交通の便のよいところは全国でも珍しく、山奥の過疎地域とは全く違います。牧之原市民に都会風の男女平等の考えや、開放的で愛想よく人を受け入れる気風が広がれば、移住してくる人は少なくないと思われます。そのような将来の可能性もまた、小学校を廃止すべきではないと考える理由の1つです。

(7) 追加 高校が統合されるのだから小中統合はやむを得ないという意見もある？

尚、県下の県立高校が次々に統合されていることを例に挙げ、小中統合已む無しという人がいます。財政を考えてのことだと思われます。しかし、①市は財政について何も言っていませんし、②仮に経済的効率性を求めるとしても、高校と、人間の基礎を作る小学校を同列に考えるべきではないと思います。小学生はまだ右も左もわからない親の庇護が必要な子供ですから、少人数教育で、地域で愛情深く育てる必要があります。一方、高校生は自分の判断で働くこともできる半分大人ですから、広い地域で1つに統合して学生数を増やし、通学に時間がかかっても特に問題はないでしょう。また、③小学校は地域の小さな共同体と深い関わりがありますが、高校はそうではありません。

今回はここまでとして、次回以降の予定は第1回目をご覧ください。（次回へ続く）

～小中学校統合（義務教育学校）の白紙撤回を求めます～

■後書き■ 最後までお読み下さり有り難うございます。